政木（まさき） 和也（かずや）　会社役員

「政木フーチ」のすすめⅢ

今の科学で解明できないこと

数年前、私の友人が会社で作業中、数メートルの高さから転落し頭部を強打、その場に倒れこみました。本人はあおむけに寝かされ、救急車で近くの病院に搬送され、集中治療室に入れられました。危篤状態のため、遠方から親戚が集められ、医師から「今夜がヤマ、運がよくても植物人間」と告げられました。ところが彼は奇跡的に助かり、後遺症も全くありませんでした。

回復した彼から大変不思議な話を聞きました。救急車が来たときの模様をすべて見ており、はっきり覚えているのです。救急車が到着して、会社の玄関から白衣を着た二人の人物がタンカを持って駆け寄ってきたというのです。この時、彼は上向きに寝かされており、当然目は天井を向いているにもかか

政木 和也（まさき かずや）
大阪府豊中市に生まれる。政木和三（かずみ）の長男。滋賀大学大学院修士了。
政木和三発案のフーチを使った人間性測定は今まで2万人以上実施してきた。政木フーチを使って、精神エネルギー、健康、風水など様々な問題を研究。現職は、会社役員。

わらず、身体から上半身が抜け出して自分のことがはっきりと見えていたと言います。いったいどの目で見ていたのでしょうか。

自分はもっと上に上がりたいのに手が引っかかっていて上がれない。よく見ると会社の同僚が手を握っており、「手を離して」と何度も言ったのに、離してもらえなかった、そのため上に上がれなかったのだそうです。会社の同僚はもちろんこの彼の声は聞こえていません。

上に上がるというのは、天上界へ行く、つまり昇天を意味します。同僚が手を握ってくれていたおかげで、この世に留まれたのでしょうか。

救急車の中での様子も鮮明に記憶しています。身体は元に戻って、目は上を向いており、手が口のところにかかっていて、手をのけたくても全く動かなかったそうです。

集中治療室で寝かされている時、弟が来て、彼の奥さんに「姉さん、兄貴がこのまま植物人間になったら大変だ、いっそ死んだほうがいいよね」と話していたこともハッキリ覚えているとのことです。

臨死体験というものですが、こんなに意識がはっきりとしていて、すべて記憶に残るというのも今の科学では説明できません。この時、家族は医師から「もう意識がありません」と言われていたのですから。

現代の科学ではまだまだわからないことがいろいろあります。私は、超能力とは言い換えれば、現代科学では未だ解明できない能力と事象であると考えています。あと数十年もすれば、かなりの事象が解明されてくるはずです。

20年ほど前、英国の国際的医学雑誌『The Lancet』に、コリー犬が主人のメラノーマ（悪性黒色腫）を発見したと報告がありました。その後、がん探知犬の研究が諸外国で進められています。日本医大の研究によると、あるラブラドルレトリバー犬の子宮がんの発見率は１００パーセント、しかもごく初期の子宮がんも発見できたとのことです。これ

は驚異的な数字です。患者の尿サンプルから検知するのですが、乳がんの探知も100パーセントということです。

中国では、地震予知に様々な動物を使っています。中国には、かつて大地震の際、ネズミが一斉に町から逃げ出したという事実があります。ネズミはなにかで地震の予兆を感知したのでしょう。

伝書鳩がどうして帰れるのかということは、いくつかの学説がありますが、未だ科学的に解明されていません。1988年にフランスから英国に向けて行われた国際伝書鳩レースで強い磁気嵐が吹き、ゴールに到着した鳩はわずか5パーセントであったことから、磁気を感知するのではないかと言われました。超低周波を感知して戻ってくるという学説もあります。また、鳩は体内にコンパスを持っているという人もいます。昨年には、ドイツのマックスプランク研究所の研究員が、鳩は大気中の匂いを使って厩舎(きゅうしゃ)まで戻ってくるという説を発表しています。いずれにせよ、何らかの能力があり帰巣できるのですが、科学で解明するにはまだまだ時間がかかりそうです。

人間は、生物の進化の最先端にいますが、霊長類としての進化の過程で視力だけ異常に発達してきました。つまり、聴力、嗅覚(きゅうかく)、触覚等は退化してきたということです。よく犬の嗅覚は人間の100万倍～1億倍と言われます。この数値は人間の嗅覚が退化してしまったということを表していますが、五感（見る、嗅ぐ、聞く、味わう、触れる）は生物生存上とても大事です。地震波や津波を動物が感知し、避難退避できるのに対し、人間は目で見て初めて危険を察知します。

匂いの話を一つ紹介します。

先日、すばらしい業績を残されたある神父が亡くなられました。知人の大学教授がお通夜に伺って神父の部屋に入ると神父の方からなんとも言えないすばらしい香りが漂ってきたそうです。天国の匂いと思えたそうです。天国と繋がっていたのでしょう。

逆の話もあります。私が東京のあるホテルに泊まった時、午前2時頃大変な悪臭で目が覚めました。ドブ川の腐った臭いです。バスルームの排水管だと思い、点検しましたが、トイレやバスタブではありませんでした。結局、部屋の中心から臭ってきていました。不浄な霊が来ていたようです。仏教式浄化をしたら瞬時に消えました。このホテルはロビーの雰囲気が暗く、ジメジメしていました。後で調べると、立地に大変問題があることがわかりました。その後、このホテルは廃業になっています。

神父の例とホテルの例は、天国の匂いと地獄の臭いの違いです。匂いは人間の奥深い脳と繋がっています。仏教のお香は、卓越した先達が天国の匂いを求めて開発してきたものです。人が亡くなって夜通し線香を焚くのは、地獄からの使者をシャットアウトするためだと考えられます。

ダライラマ法王に伺いましたが、死後48時間と49日は大変深い意味があります。フーチで様々な現象を追い求めていると、仏教の奥深さに感嘆することが多々あります。

チベット医学研究所のある名医は、脈診だけですべての既往症や病気を診断されます。私たちと共同研究を行ったのですが、この医師が来日したときに知人が診断を受けました。前もって自分の病歴も説明しないで、ただ前に座って脈診をしてもらうだけで、すべての既往症や過去の手術のことなど言い当てました。触覚が優れているのでしょうが、科学技術の分析に頼らないで正確な診断ができるのは、長年の修練によるもので、人間の能力の極致です。

人間は、魚類、両生類、爬虫類、哺乳類という進化を遂げてきました。ディメトロドンという背中に大きな帆を持った恐竜のような生物をご存じですか？変温動物でありながら、この帆が体温調節を果たしていたという意味で哺乳類型爬虫類なのですが、これは人類の祖先でもあります。その後、ネズミのような哺乳類から霊長類そしてヒトに進化してきまし

た。

ヒトの最も古い脳のことを爬虫類型脳と言います。第一脳とも言うのですが、一億年以上前に私たちが獲得した脳です。この脳を使うと動物の本来持っているすばらしい能力が発揮できます。ただ、活用できていないのです。脳波で言うと、シータ波やデルタ波です。「心頭を滅却すれば火もまた涼し」、すなわち、無念無想の境地です。政木フーチは無念無想になった時に近い情報を得ることができるツールです。

人間は、爬虫類型脳の上に哺乳類型脳があり、さらにその上に新哺乳類型脳があります。直観力の優れた人は、奥深い脳の情報を読み取れる能力があります。まさに動物的直観というもので、緊急時に生死を左右する能力です。フーチを使って本来自分が持っている情報を読み取ってください。

脳の使い方で一つの例を紹介します。

私の友人で、人格の優れた誠実な男性がいます。しかし彼は、お酒がある一定ラインを超えると突然人格が入れ替わります。一瞬にして変わりますので、最初びっくりしました。目つきも変わり、粗野で自分勝手な人格になり、まるで悪魔が憑依したかのようです。フーチで測ると、第二生命体が入れ替わっています。彼がこの酩酊状態になると、必ずこの生命体が現れます。しかし、これは憑依ではありません。いわば内なる自分が、あるきっかけで現れるのです。

彼は、深酒をすると必ず行くスナックがあります。自然と足が向くようです。しかし、素面（しらふ）では行けないのです。道順が分からないからです。つまり、普段の状態で使う脳と深酒をした時の脳が違うわけです。素面の時は、深酒の時に使う脳にアクセスできないということを示しています。このことから、脳と第二生命体との間には密接な関係があることが理解できます。

新約聖書のトップページ「マタイによる福音書」（1・20）に、ヨセフについて次のような記述があり

ます。

主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎(たい)の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

「ルカによる福音書」（1・26～32）には、マリアについて、次のように書かれています。

天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」――略――「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。――略――」

有名な受胎告知ですが、皆様は神の声を聞くという体験をされたことはありますか？

私は無宗教ですが、無神論者ではありません。敬虔なクリスチャンの方でも、この受胎告知にある神の声をきくという事象を信じない人がいます。理由は自分が聞いたことがないからということです。しかし、この部分はキリストの誕生に関わるとても重要な部分です。いわばすべての始まりです。

父の知り合いが、不思議な体験をしています。

１９９５年の阪神大震災の前日の夜10時頃、彼の神戸の自宅に父から電話があり、「すぐに神戸を離れなさい」と言われて、最終の新幹線に乗り、福山まで行ったそうです。そのあくる日の早朝に阪神大震災が発生しました。その後その知人は父のもとを訪れ、「先生のおかげで命拾いをしました」と感謝の意を表しました。

ところが、父は電話をしていないと言うのです。父が無意識で電話をしたのか、神様が父の声を使っ

て知人に知らせたのか、正確なことはわかりません。ただ、この電話のおかげで、その知人は命拾いをしたわけです。

これまで述べてきた様々な事例は、現代の科学では未だ解明できないことです。動物の持つ不思議な能力は人間には備わっていませんし、「神の声をきく」のも常人にはかなり困難なことですが、脳波をシータ波かデルタ波の状態にしてフーチを使えば、それに近い情報を得ることができます。

脳波をシータ波にするには、まず姿勢を正し、深呼吸をして、腹式呼吸をしてください。座禅の姿勢を思い浮かべていただくと、わかりやすいと思います。

風水のことは以前お話しいたしました。ご自分の家をフーチで測定された方はおられますか?

鬼門について少し説明します。風水では、鬼門にトイレを配置するといけない、と一般的に言われています。なぜでしょうか?

前号でマイナス数値の高いところに瓶(かめ)を置き、水を溜めて適時入れ替える、という古来の方法を紹介しました。水がマイナスエネルギーを吸収してキープしてくれるからです。一定期間を過ぎてマイナスがたまり、飽和状態になると今度はマイナスエネルギーを放出してきます。だから、必ず一定の間隔で水を入れ替える必要があるわけです。水を交換する間隔はフーチで測ってください。毎日必要な場合もありますし、一週間に一回で十分な場合もあります。土地の状態と瓶に入れる水の量によります。

鬼門のトイレの件はお気づきになられましたか? 鬼門は家のなかで最もマイナスエネルギーが多く溜まるところです。昔の雪隠(せっちん)トイレは、長期間水分を多く含む液体を溜めこんでいたわけです。だから、鬼門に雪隠トイレはよくないと言われたのです。ただし、今は水洗トイレです。常に水が流れているわけですし、清潔です。このように、古来の知恵はあくまで、その時代の環境に応じた理論とノウハウです。家を新築する場合、フーチでご確認くだ

さい。

ただし、エネルギーの大きい人は、風水の影響をあまり受けません。風水が少々悪くても、それに動じないレベルのエネルギーを持つようにすることも重要です。

フーチで見る未来と様々な事象

前号でフーチから見える未来のことを書きました。読んでおられない方のために事例をもう一度紹介します。

父がある知人の女性の新婚旅行の旅程表を測ったところ、非常に強いマイナス反応が出ました。そこで、彼女は日程と行き先を変えました。彼女が父のところに来て、「先生、大変感謝しています。私たちが宿泊予定であったホテルが全焼しました。ちょうど滞在予定の日でしたので、焼け死んだ可能性が大きかったです」と言われました。

人間の運命は生まれた時に決まっていると言われます。しかし、フーチを使うことによって変えることができます。

アリ地獄をご存じだと思います。アリが歩いていると、突然アリ地獄の入り口に差し掛かって、気が付いた時にはすでに手遅れで、ズルズルと滑っていき、アリ地獄の獲物になってしまいます。アリの視点では、アリ地獄の仕掛けが全く見えないわけです。しかし、人間の視点、つまり高い位置から見れば、「このアリはこのまま進めばアリ地獄に落ちる」とアリの数分先の状態が見えるわけです。

フーチはこのように高い位置にある視点から未来が見えるのだと考えています。正夢を見た経験のある方はご理解いただけると思います。デジャブ（既視感）は多くの方が体験したことがあると言われています。過去の似たような体験が重なるというレベルではなく、全くその通りの体験を以前どこかで見たという感覚のものです。熟睡中に意識が未来に行き、その光景を見たのではないかとも考えられます。シータ波やデルタ波の状態でフーチを使うと、この